

商品の安全対策

地震等の災害に対して絶対に安全ということはありません。地震に限らずより安全な防災対策や、被害を最小限に食い止めるための対策に重点をおき、まずできることや身近な対策をしていくことをおすすめします。

通路、レイアウトの見直し

通路は、適度な間隔で設け、十分な幅をとり、余裕のあるレイアウトが大切です。倒れた家具により非常口が塞がれないよう非常口や出入り口の近くは、十分なスペースをとってください。万が一家具などが倒れても通路の確保が可能なレイアウトが望ましく、廊下には家具や備品を置かないようにしましょう。

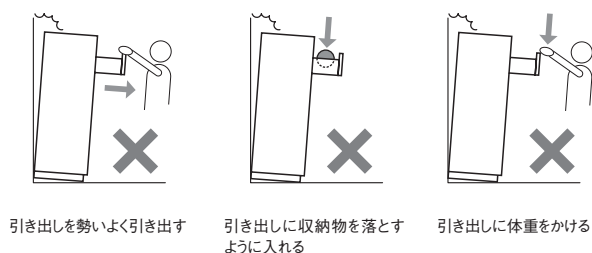
転倒防止について

■テーブル

- 甲板の端に体重をかけたり、重いものを載せないでください。テーブルが倒れて、けがをしたり、ものを破損することがあります。
- 会議用テーブルを使用するときは、コーナータイプを単独で使用すると倒れやすくなりますので、必ず直線タイプとセットでお使いください。
- デスクシステム用ミーティングテーブル・サイドテーブルなどを使用するときは、必ずデスク本体と連結してお使いください。

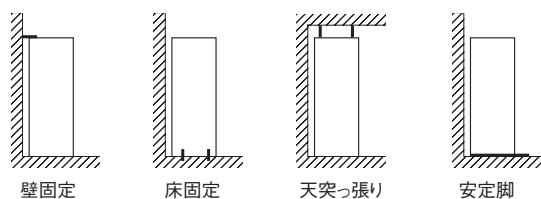
■収納家具

- 収納家具は、品種や使い方によって転倒しやすい場合があります。
- ラテラル（引き出し）タイプやコンビタイプを単体で使用すると、転倒のおそれがあります（下図参照）。

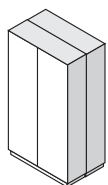


必ず以下のように床・壁面へ固定する対策をお取りください。

●単体（単連）置きの場合

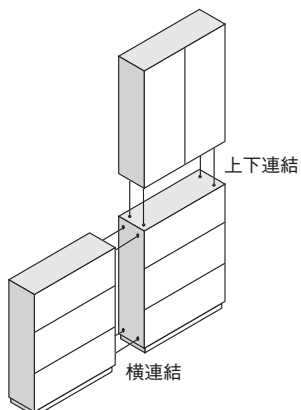


●背合わせ連結の場合



●複数連置きの場合

標準施工として、本体どうしの連結（横連結・上下連結）を必ず行った上で、上記単体（単連）置きの場合と同様の対策をお願いします。



ストッパーやアジャスターの使用

家具の安全性を高めるために必ずアジャスターの調節を行い、移動する時以外は、キャスターのストッパーを必ずロックしてください。

- 引き出しに収納するときは、最下段から収納してください。上段や手前だけに偏った収納をすると、重量バランスから引き出し時に転倒のおそれがあります。

- 収納システムやローパーティション、棚類などは、お客様で解体や移設・レイアウト変更をしないでください。組立・施工が不十分ですと、破損や転倒によりけがをすることがあります。必ずお買上げの販売店にご相談ください。



商品本体のわかりやすい部分に、安全のための警告または禁止マークが表示されています。

商品が倒れてくることへの警告マーク

- ①転倒防止対策のない壁面収納家具は、転倒による怪我の原因となります。必ず転倒防止対策を施した商品をご使用ください。
- ②壁面収納家具の施工後に移設する場合は、必ず設置施工のメーカーまたは販売店にご相談で依頼ください。指定業者以外の者が、移設施工した場合は、その移設施工に起因する事故には一切の責任を負うことができません。
- ③壁面収納家具は大型で施工を伴う家具ですので、一般の置き家具とは構造等異なります。[取扱説明書]を確認の上、ご使用ください。

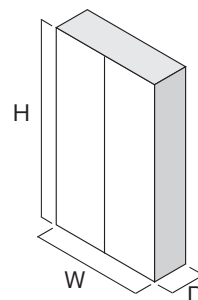
収納家具の転倒対策

- 家具の寸法を下記の判別式に当てはめて計算することで、転倒しやすいか、しにくいのか判別できます。（収納家具／加速度900ガルを想定）

4より大きいと転倒しにくい 4より小さいと転倒しやすい

$$\frac{B}{\sqrt{H}} \geq 4$$

H = 高さ
B = WもしくはD数値の小さい方
単位：cm



可動式机イス
固定式机イス
講義机連結机
アクティブラーニング
教室備品
特別支援
美術室書道室
音楽室
コンピュータ室
理科実験室
調理実習室
被服実習室
技術室工作室
ツール
収納
多目的スペース
ランチルーム
図書・ラーニング commons
事務机イス
書庫・金庫ロッカー
校長室応接ロビー
保健室相談室
会議テーブルイス
講堂体育館
屋外備品
玄関昇降口
黒板
寮
印刷室倉庫
塾
学童保育